



「ニュー・ブランシュ KYOTO」 ～10年目を迎えて～

京都市総合企画局国際化推進室

はじめに

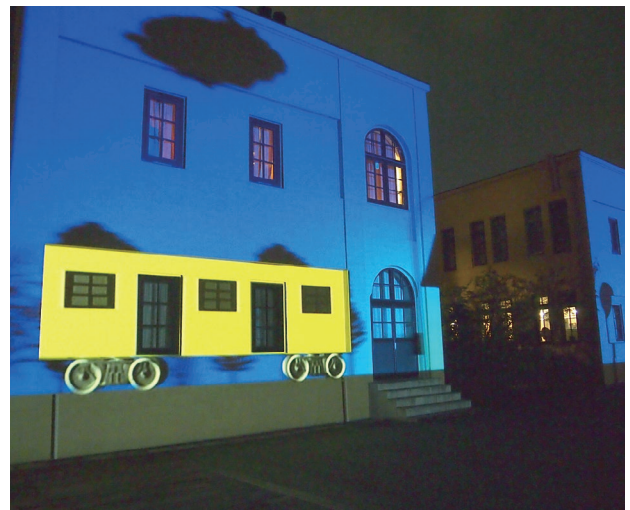
京都市では、世界の9つの都市（パリ、ボストン、ケルン、フィレンツェ、キエフ、西安、グアダラハラ、ザグレブ、プラハ）と姉妹（友好）都市提携を結び、文化、スポーツなど多彩な交流を行っています。本市では、各姉妹（友好）都市と10周年ごとに代表団の相互派遣や文化イベント開催など周年事業を実施することを基本としていますが、1都市だけ例外があります。それがパリ、「ニュー・ブランシュ KYOTO」です。

「ニュー・ブランシュ KYOTO」とは

この事業はパリで毎年10月の第1土曜日の夜に開催される現代アートのイベント「ニュー・ブランシュ（白夜祭）」に着想を得たもので、「ニュー・ブランシュ」は京都市を含む世界の約20都市で実施されたことがあります。本市では、2009年にフランス総領事館が大阪から京都へ移転されたこと、また、総領事から提案を受けたことがきっかけとなり、2011年から本市と関西日仏学館（現アンスティチュ・フランセ関西）の主催により「ニュー・ブランシュ KYOTO」を開催する運びとなりました。

「ニュー・ブランシュ KYOTO」は、市長や駐日大使等が挨拶をするメイン会場のほか、文化施設、ギャラリー等京都市内の複数会場で開催しており、中には明け方まで開場している所もあります。入場無料で実施しているということ、一夜限りであることもこのイベントの特徴です。2011年の第1回目の開催時は、「マチデコ・インターナショナル～街を映像でデコレートするプロジェクト～」という別事業を柱に据え、4会場でプロジェクションマッピングや日仏アーティストによる音楽、ダンスパフォーマンスを実施しました。事業は好評を博し、来場者や関係団体から継続実施を希望する声が

多く寄せられ、本市としてもこの事業がパリ市との友好関係を一層促進するための架け橋になると考えたため、引き続き実施することとなりました。2014年以降は毎年1つのテーマを定め、各会場ではそれに合うプログラムを催すなど、毎年の変化を感じていただける企画をしています。



京都国際マンガミュージアムで実施されたプロジェクションマッピング（2013年）



パリ市との友情盟約締結60周年の時には、門川大作京都市長のほか、パリ市副市長、歌手で京都観光おもてなし大使の倉木麻衣氏に登壇いただきました。（2018年）



tuQmo による現代サーカスのパフォーマンス (2019年)

新型コロナウイルス禍での「ニュー・ブランシュ KYOTO」

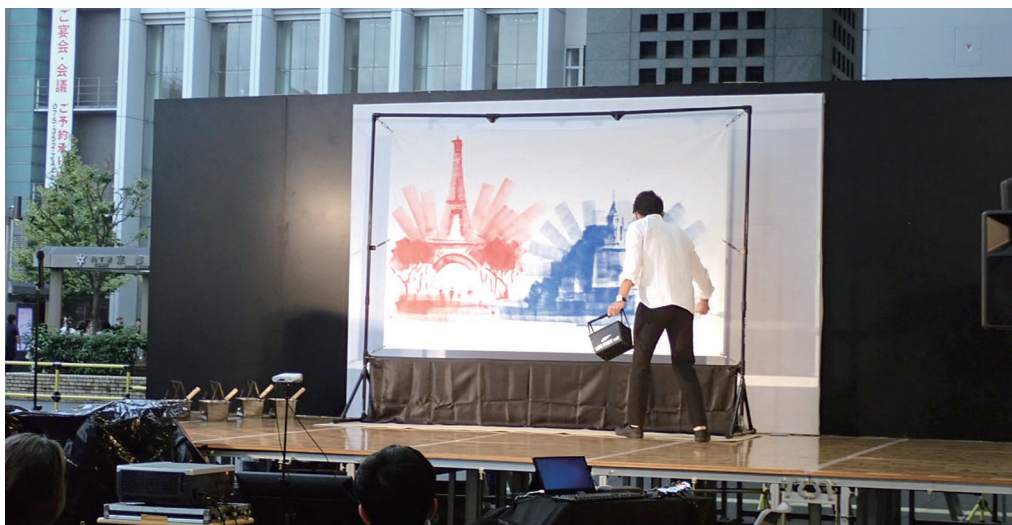
2020年10月3日、京都市内各所で記念すべき10回目となる「ニュー・ブランシュ KYOTO 2020」を開催しました。当初、第10回目の開催となる今年度は新型コロナウイルスの感染拡大もあり、実施が危ぶまれましたが、5月下旬に緊急事態宣言が解除されたこと、また何よりこのような時期だからこそ文化の力で市民の方々に元気づけたいという思いから、開催に踏み切りました。今年度は海外からアーティストを招へいすることはできませんでしたが、国内に居住のフランス人アーティストや、フランスでも活躍している日本人アーティストに出演いただいたほか、複数会場で同じ映像を上映するなど工夫を凝らしました。今年度のテーマはフランス語で「FLUX」(フロー、流れ)。これまで当然のように捉

えられてきた「流れ」が新型コロナウイルス感染症により変わりつつある今、水の流れるようにとどまることのない動きに思いを巡らせ、アーティストたちがこれからの「流れ」を予感させる一。そのようなテーマで過去最多となる42会場で実施し、のべ約1万7,000人の方に来場いただきました。また、アンケートでは82%の方からイベントに満足しているとの回答をいただきました。



ソーシャルディスタンスをとりながら鑑賞する観客の様子 (2020年)

久しぶりに生でパフォーマンスを見られてよかった、開催を楽しみに待っていた、これからも応援している等、感想を多くいただき、このイベントのファンがいてくださることを嬉しく感じました。より多くの市民に姉妹都市パリを認識していただけるよう、また、より一層市民の方々にパリ市との親交を深めていただけるよう、今後も関係機関と協力し実施していきたいと思います。10歳になった「ニュー・ブランシュ KYOTO」の今後の成長をお楽しみに！



フランスのイベントに出演経験のある、さとうたけし氏によるライブペインティングパフォーマンス。ローラーとペンキのみで数分のうちに完成したパリの風景は圧巻で、大好評でした。(2020年)